

## 高等学校 地理歴史科 (『世界史探究』) 学習指導案

指導者 藤原 隆範

**日時** 令和7年11月28日(金) 第2限 10:35～11:25  
**場所** 第1社会科教室  
**学年・組** 高等学校Ⅲ年 選択ア組 30人  
**単元** 地球世界の課題の探究 (『世界史探究』実教出版 398～403p.より)  
**目標** カンボジアを中心とした東南アジア史の学習を通して、持続可能な地球世界のあり方を考察し、表現する。

### 指導計画 (全3時間)

第一次	東南アジアの多様性とカンボジアの繁栄	1時間
第二次	19世紀、西欧列強の進出と東南アジアの対応	1時間
第三次	20世紀、東南アジア諸国で生じた経済格差	1時間 (本時)

### 授業について

「世界史探究」の学習指導要領「内容」の大項目「E 地球世界の課題」のなかの、中項目「(4) 地球世界の課題の探究」の領域で、単元を設定した。この項目では、「紛争解決や共生」「経済格差の是正や経済発展」などのテーマが例示され、生徒には、歴史的経緯を踏まえてこれら地球世界の課題を理解させると共に、その背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域のつながりなどに着目させ、諸資料を読み解き、多面的・多角的な考察を通して、持続可能な地球世界を構想し表現させる探究活動が求められている。そのためには、世界史全体を視野に入れた適切な主題の設定が必要であるが、本小単元では東南アジア史を、カンボジアを中心にして考察する。本時の授業は、「世界史探究」のみならず、「日本史探究」「地理探究」「政治・経済」等の科目の学びで得た知識や、培われた能力を駆使して課題解決に取り組みせる、高校3年間の学びの集大成として構想した。その際には、人文科学と社会科学等の知見との学際的な連携を意識させたい。最終的には、「地歴科」「公民科」の学習で得た知識と、培われた思考力・判断力・表現力等を使って、持続可能な地球世界の構築に向けて、自らがどう関わっていけばよいか、カンボジアを事例として多面的・多角的に考察させ、自らの考えを表現させることが目的である。

**題目** 持続可能な地球世界の構築のために ―カンボジアの“光と影”を通して学ぶ―

### 本時の目標

1. カンボジアのクメール文化の特色を理解し、16世紀頃まで、なぜカンボジアが東南アジアで最も繁栄した国家であったのかを説明できる。(思考力、判断力、表現力等)
2. カンボジアの衰退の要因を、西欧の進出、ベトナム戦争、カンボジア内戦など、19世紀以降の東南アジア史の文脈を通して説明できる。(思考力、判断力、表現力等)
3. 持続可能な地球世界の構築にむけて、自分に何ができるか、自分の考えをまとめ、発表できる。(学びに向かう力、人間性等)

### 本時の評価規準 (観点/方法)

1. 16世紀までのカンボジアの繁栄の要因を、多角的に説明できる。  
(思考・判断・表現/ワークシート・観察)
2. 17世紀以降のカンボジアの衰退の要因を、多角的に説明できる。  
(思考・判断・表現/ワークシート・観察)
3. 持続可能な地球世界の構築にむけて何ができるか、多角的に考え、発表する。  
(主体的に学習に取り組む態度/ワークシート・観察)

## 本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
東南アジア3か国の経済格差 → なぜ、カンボジアだけ経済成長できていないのか、問題提起。	タイ・ベトナム・カンボジアの経済格差を、データを通して理解する。カンボジアの貧困の実態を理解する。	ひとりあたりのGDPなどのデータを比較する。ユネスコの「世界寺子屋運動」の趣旨を理解する。
カンボジアの光と影	16世紀までのカンボジアは、東南アジアで最も繁栄した国家であったことを、データを通して理解する。	アンコール遺跡に代表されるクメール文化の特色を理解する。農業生産を支えたメコン川とトンレサップ湖の役割を考察する。江戸時代にアンコールワットを訪れた日本人の事例を紹介する。
西欧進出と東南アジア	17世紀以降カンボジアは、クメール文化が急速に衰退したことを理解する。	衰退の原因を、隣国のタイとベトナムとの関係から考察する。
第二次世界大戦後の東南アジア	19世紀にタイ・ベトナム・カンボジアが西欧の進出にどう対応したか理解する。	タイは独立を維持。ベトナムとカンボジアは仏領インドシナ連邦としてフランスの保護国に。
持続可能な地球世界構築ために	タイ・ベトナム・カンボジアの第二次世界大戦の歴史を理解する。	ベトナム戦争とカンボジア内戦を経て、なぜベトナムとカンボジアとの間で、大きな経済格差が生じたのか考察する。
世界史学習の意義	カンボジアの歴史を通して、サステナビリティの阻害要因は何であったか考察する。	戦争と独裁が、カンボジアの国力を根こそぎ奪い取ったと言ってもよい、その実態を考察する。
備考 使用教科書『探究世界史』（実教出版） 『現代の歴史総合  みる・読みとく・考える』（山川出版社） 使用副教材『世界史詳覧』（浜島書店）		

東南アジア史（その3）－現代史－

「世界史探究（美教出版）」 61～63p. 150～151p. 182～183p. 284～287p. 343～344p. 355～356p. 366～367p.  
「現代の歴史総合－みる・読みとく・考える－（山川出版）」 171～172p. 186p. 197p. 207～208p. 227p. 239p.  
「世界史詳覧（浜島書店）」 58～61p. 232～233p. 263p. 286～287p.  
「世界史B一問一答必修版（東進ブックス）」 86～93p. 418～425p. 550～559p.

【東南アジア5か国 地誌】 問1 A～Eに適当な国名を入れよ。

	旧宗主国	主な宗教	主な気候	人口	面積	一口メモ
A	フランス	大乗仏教	Aw・C w	9750 万人 (15 位)	33.1 万km <sup>2</sup> (65 位)	ドイモイ政策。コーヒー生産量は世界2位。
B	フランス	上座部仏教	Aw・C w	1660 万人 (70 位)	18.1 万km <sup>2</sup> (88 位)	アンコールワットは当初ヒンドゥー教寺院。
C		上座部仏教	Am・C w	7160 万人 (20 位)	51.3 万km <sup>2</sup> (50 位)	緩衝地帯として独立維持。
D	オランダ	イスラム教	Af	2 億 7400 万人 (4 位)	191.1 万km <sup>2</sup> (14 位)	イスラム教徒の国別信者数は世界一。
E	イギリス	イスラム教	Af	3360 万人 (45 位)	33.1 万km <sup>2</sup> (66 位)	ブミプトラ政策。ルックイースト政策。

A ( ) B ( ) C ( ) D ( ) E ( )

【プレ・アンコール時代】（復習）

- ① メコン川下流域に東南アジア最初の国家である (1 ) がおこる。  
② 最初の国王はインド人のバラモンという伝説あり。  
③ インド文化を受容し、クシャーナ朝と交渉の記録あり。  
④ インドと中国との中継貿易で繁栄 → 外港の (2 ) では、ローマ帝国時代の金貨や漢の鏡が出土  
⑤ メコン川中下流域にクメール人が <sup>しんろう</sup>真臘 を建国  
⑥ 8世紀に <sup>りくしんろう</sup>陸真臘 と <sup>すいしんろう</sup>水真臘 に分裂

【アンコール朝】（復習）

- ① 802 年頃、ジャヤヴァルマン2世が再統一して、クメール王国を創始。都をアンコールにおき、アンコール朝とよばれる。  
② 1113 年、スールヤヴァルマン2世が (3 ) を造営。最初はヒンドゥー教寺院, 16 世紀頃, 上座部仏教寺院に。  
③ 1181 年、ヤショヴァルマン7世が (4 ) を創設。この頃がアンコール朝の全盛期。

問2 アンコール朝の繁栄の理由を、地理的条件から説明してみよう。( )

【ポスト・アンコール時代】（復習）

- ① 1431 年頃、クメール王国は、都をアンコールから移転。  
② その後、しだいにクメール王国は領土が減少。アンコールは密林に埋もれる。  
③ 1860 年、フランスの博物学者アンリ＝ムオが、アンコール・ワットを再発見。  
④ 1863 年、カンボジアがフランスの保護国に  
⑤ 1887 年、カンボジアを (5 ) に編入

問3 アンコール朝の衰退の理由を推測してみよう。( )

【江戸時代にアンコール・ワットを訪れた武士】

「寛永九年正月初而此所来。生国日本。肥州之住人藤原之朝臣森本右近太夫一房。御堂心為千里之海上渡。一念之儀念生々世々娑婆寿生之思清者也為。其仏像四軀立奉者也。摂州津池田之住人森本儀太夫。右実名一吉善魂道仙士。為娑婆是書物也。尾州之国名谷之都後室其老母亡魂。明信大姉為後世是書物也。寛永九年正月世日」

「寛永九年正月初めてここに来る。生国は日本。肥州の住人藤原朝臣森本右近太夫一房。御堂を志し数千里の海上を渡り。一念を念じ世々娑婆浮世の思いを清めるためにここに仏四体を奉るものなり。摂州津池田の住人森本儀太夫, 右実名一吉, 善魂道仙士, 娑婆のために是を書くものなり。尾州の国名谷の都, 後, その室老母の亡魂, 明信大姉の後世のためにこれを書くものなり。寛永九年1月30日」

問4 この武士は、どこの港から旅立ち、どこの港に着いたと考えられるか。( )

問5 江戸時代は鎖国が行われていたはずなのに、なぜ、渡航できたのか。( )

問6 この武士は、なんのためにアンコール・ワットに行ったのか。( )

問7 この頃のアンコール=ワットは、どのような状況と推測されるか。( )

問8 この武士は、カンボジアから無事帰国することができたか。( )

問9 問8のことを調べるには、どのような方法が考えられるか。( )

【インドシナ戦争】

- ① 1945 年、ホー=チ=ミンの八月革命が成功し (6 ) 独立  
② 1949 年、フランスが、自治を承認した協定を無視して軍事占領し, (7 ) 主席の (8 ) 樹立  
③ 1954 年, (8 ) の戦いでフランス軍大敗  
④ 1954 年, (9 ) 休戦協定で (10 ) 線が軍事境界線に  
⑤ 1955 年, 東南アジアに社会主義波及を恐れたアメリカは, 南に (11 ) 建国→ (12 )  
⑥ 1960 年, 南ヴェトナムに, グエン=フート指導の (13 ) が結成される。

【ヴェトナム戦争】

- ① 1964 年, (14 トンキン湾事件) …… トンキン湾でアメリカの軍艦が攻撃されたとされる, でっちあげ事件
- ② 1965 年, (15 北爆) 開始 ← ジョンソン大統領
- ③ 1968 年, ニクソン大統領の “ヴェトナム化宣言” = アメリカ撤退の意思表明
- ④ 1973 年, (16 パリ和平協定 )
- ⑤ 1975 年, サイゴン陥落
- ⑥ 1976 年, (17 ヴェトナム社会主義共和国 )
- ☆ 1986 年, (18 ドイモイ ) …… 共産党独裁下での市場経済への移行, 外資導入などの経済改革

【カンボジア内戦】

- ① 1953 年, 独立 ← シハヌークの指導
- ② 1960 年, シハヌークは国家元首に → シハヌークはしだいに反米化
- ③ 1970 年, 親米派 (19 ロン=ノル ) のクーデター → シハヌークは中国へ亡命 → カンボジア内戦
- 問10 カンボジア内戦で, 親米政権がしだいに勢力を失っていったのはなぜか。 ( )
- ④ 1976 年, 親中国派の (20 ポル=ポト ) 政権 = 毛沢東の影響 → 住民の強制移住, 大虐殺

マルクス の考えた 歴史の 発展段階	社会 体制	原始共産制社 会	古代奴隷制社 会	中世封建制社 会	資本主義社会	社会主義社会
生産 関係	共同作業	貴族と奴隷	貴族と奴隷	領主と農奴	資本家と労働 者	労働者のみ
生産 力	石器 骨角器		青銅器	くわ・かま・ すき	機械・工場	機械・工場の 社会化

問11 ポルポトは, 原始共産制社会を建設  
するために, どのようなことをおこなった  
か。 ( )

問12 ポルポトの大虐殺で犠牲になったの  
はどのような人たちか。 ( )

- ⑤ 1979 年, 親ヴェトナム派の (21 ヘン=サムリン ) 政権 → 中越戦争 → ベトナムの勝利
- ⑥ 1991 年, パリ和平協定
- ⑦ 1992 年, UNTAC (アンタック) が武装解除
- ⑧ 1993 年, 総選挙で新生カンボジア誕生。 ← 国連平和維持活動 (PKO) が展開 = 日本の自衛隊が初めての参加

【新生カンボジア】

問13 今日, 日本とカンボジアはどのような関係にあるか。 ( )

- (主な参考文献) ○ 石澤良昭著『東南アジア 多文明世界の発見』講談社 2009 年。  
○ 綾部恒雄・石井米雄『もっと知りたいカンボジア』弘文堂 1996 年。  
○ 石澤良昭著『アンコール王朝興亡史』NHKブックス 2021 年。  
○ 地球の歩き方編集室『地球の歩き方 アンコール・ワットとカンボジア 2025 ~ 2026』学研

【今日の復習・家庭学習コーナー】

2007 「世界史B」センター本試験 第 1 問の一部 聖地や霊場への巡礼について述べた以下の文章を読んで問に答えなさい。



カンボジアにある④アンコール=ワットの石柱には, 参詣人の落書きが少なくない。17 世紀前半日本の肥前, 肥後, 堺などからの来訪者による墨書もいくつかある。なかでも森本右近太夫一房のもの(左図参照)が有名で, 彼は 1632(寛永 9)年に, 父母の後世を願い, 仏像 4 体を奉納したことを書き残した。この折に一房は, 伽藍の配置を写し取り, 『平家物語』で有名な祇園精舎の図として持ち帰ったという。当時日本からの参詣人は, アンコール=ワットを, インドに存在した, ⑤ガウタマ=シッダールタゆかりの修行場と勘違いしていたようである。ともあれ「仏教の聖地」として, この地を訪れることができたのは, ⑥当時朱印船が日本と東南アジアの間を行き来していたからにはほかならない。

問 4 下線部④について述べた文として最も適当なものを, 次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① シュリーヴィジャヤ王国によって建設された。 ② インドのヴァルダナ朝と同時期に建設された。
- ③ チャンドラグプタ 2 世によって建設された。 ④ 当初はヒンドゥー寺院として建設された。

問 5 下線部⑤の人物が説いた教えの伝播について述べた文として正しいものを, 次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① インドではマウリヤ朝時代に, 大乘仏教が広まった。 ② 中国では唐の時代, 玄奘がインドに旅し, 仏典を持ち帰った。
- ③ インドネシアのパガン朝で, 上座部仏教が広まった。 ④ 朝鮮半島には, 朝鮮(李朝)時代に初めて伝わった。

問 6 下線部⑥に関連して, 16 世紀後半から 17 世紀前半までの東南アジアについて述べた文として正しいものを, 次の①～④のうちから一つ選べ

- ① マニラは, スペインの交易拠点であった。 ② ヴェトナムに, 陳朝が成立した。
- ③ マレー半島では, マラッカ王国が海上交易で, 繁栄していた。 ④ タイでは, スコータイ王朝が交易で繁栄していた。